

事例 8

1 労働者本人および要介護者の属性

労働者本人	性別・年齢	女性・50代
	就業形態	常勤・正社員
	職種、仕事内容等	看護師（病院）
	居住地	三重県
要介護者	性別・年齢	男性・50代
	労働者本人との続柄	夫
	要介護度	要介護2
	認知症	認知症なし
	傷病・既往歴等	肺がん
	日常生活自立度・必要な介護の状況	肺がんの進行に伴い、日常生活自立度が低下。
	居住地	三重県
家族構成、介護分担の状況等	<p>The diagram illustrates the family structure. It shows '本人の母' (Mother) in a pink box, '本人 (50代)' (Worker, 50s) in a grey box, and '夫 (50代) 要介護2' (Husband, 50s, Level 2 Care) in an orange box. Lines connect the mother to the worker, and the worker to the husband. Below them, '息子 (高校生)' (Son, High School Student) in a blue box and '息子 (中学生)' (Son, Middle School Student) in a yellow box are shown. Lines connect the worker to both sons, and the husband to the middle school son. The living arrangement is indicated: '近居' (Nearby residence) for the mother, '同居' (Cohabitation) for the worker and husband, and '別居/寮' (Separate residence/boarding house) for the high school son.</p>	

2 働き方の工夫と両立支援制度等の利用状況

働き方の工夫

～がんの末期と分かり、介護休業を取得して看護に専念～

- お盆休みに、夫が、胸が締め付けられるような気がするということで、病院へ行ってCTを撮り、4日後に病院へ結果を聞きにいきました。がんの疑いがあるということで、すぐに大きな病院を受診したところ、その日のうちに肺がんと診断され、すぐに抗がん剤治療を始めることになりました。入院期間は3か月で、毎日病院へ通いましたが、特に働き方は変えずに対応できました。抗がん剤がよく効いて、その時は寛解（病状が落ち着いて安定した状態）と言われました。
- その1か月半後、腰が痛いということで、病院へ行くと、がんが転移していました。見た目は元気な様子ではありましたが、すぐに抗がん剤治療を行うために入院手続きをしました。さらに1か月ほど経った頃、病院の主治医より、次の抗がん剤が効かなかったら、助からないと伝えられました。看護に専念したいと思い、この話を聞いた日に、職場の上司に介護休業の取得を相談し、翌日から休業に入りました。

両立支援制度等の利用状況

- 介護休業の取得を突然決めたにも関わらず、職場の上司は承諾してくれて、事務の職員もすぐに手続きの対応をしてくれました。休業期間は、亡くなるまでの2週間ほどとなりました。取得を開始した時は、どのくらいの期間となるのか予想もつきませんでした。思いきって休んだことで、深く看護に関わることができました。

- 夫が亡くなった後、上司から、手続きなど、いろいろ大変だと思うので、慶弔休暇の上限は気にせず、落ち着いた良い時に復帰するよう言ってくれました。後半、人手が足りない時に数日出勤しましたが、ゴールデンウィークの祝祭日等も含め、1か月間ほど休みました。

3 介護に関わるサービスの利用状況と自身が担っている介護

介護・医療に関わるサービスの利用状況

～病院のソーシャルワーカーが在宅で看取るための退院を調整～

- がんの再発後、主治医から、家での看取りは間に合わないので病院で看取ると言われた時、突然の余命宣告で、何が間に合わないのかと混乱しました。
どんどん弱っていく姿を病室で見ながら、どうしても家に連れて帰りたくなり、病院のソーシャルワーカーに相談したところ、在宅へ向けての調整を進めてくれました。在宅で診てもらいたい医師がいるのかと聞かれ、以前、テレビでみて、本も取り寄せて読んでいた医師（24時間体制で看取りに対応してくれる診療所）に診てもらいたいと思っていたので、その医師や診療所名を伝えました。
病院に泊まりで付き添っていて、自分でその診療所へ申し込みに行く時間がないことを伝えると、すぐに動いてくれて、あつという間に話が進み、次の日には、その診療所の医師が病院に来て、退院前カンファレンスが開催されました。
- 退院前カンファレンスのメンバーは、入院している病院側からは主治医、病棟の看護師長、担当看護師、退院支援のソーシャルワーカー、診療所からは医師と看護師、訪問看護ステーションの職員、介護サービス事業者からはケアマネジャー、ベッドのレンタル事業者などで、自分も参加しました。病院のソーシャルワーカーから、退院が決まれば、その診療所の医師が病院に診察にきてくれるとのことで、その調整も行ってくれました。
- 退院に際しては、車いすなので、ケアマネジャーが福祉用具の事業者と調整して、玄関にスロープをつけておくなどの対応をしてくれていました。介護タクシーの手配も、病院のソーシャルワーカーとケアマネジャーで相談して、良い事業者を手配してくれていました。

自身が担っている介護

～病院へ立ち寄る段取りを工夫して、仕事や家事等と両立～

- 最初の入院の際には、当初は仕事帰りに毎日病院へ寄って、家に帰ってきてから、食事の準備や家事をこなしていましたが、どうしても家に戻る時間が遅くなり、子どもの夕食が遅くなってしまいうこともありました。
- そこで、まず、仕事から家に帰り、夕食の用意をして、子どもにご飯を食べさせてから、病院へ行くようにしました。子どもも、行けるときには一緒に病院へいきました。この方法の方が、時間を有効に使うことができ、精神的にも楽でした。

4 仕事と介護の両立実現のための周囲との連携状況

専門職・相談者の支援状況

～病院のソーシャルワーカーが何気ない一言を聞きとって対応してくれた～

- 病院のソーシャルワーカーへの相談のきっかけは、再発後の入院が決まった時、夫から、長

期に休みを取ることになるので、社会的な支援制度などについて、代わりに病院の相談室へ聞きにいった欲しいと言われたことでした。相談に行った際、自分が「病院で看取るのは嫌だな。家に連れて帰りたいな」と、ぼそっとつぶやいたことを聞きとってくれていました。そして在宅で看取ることができるようにと動いてくれました。思ったことを口に出して本当に良かったと思っています。

家族や近隣の人との連携・協力状況

～友達の協力も得て、在宅での看取りが実現～

- 友達にも恵まれ、手伝える日を教えてくれて、自分が入浴のために自宅に帰ったり、用事を済ませている間に、病院で留守番をしてくれたり、必要なものを調達してくれるなどしました。
- いよいよ在宅に戻るといふ日に、入院生活が長いこともあり、家の掃除等が必要で、親や兄妹に助けを求めたところ、先に自宅へ来て掃除をしてくれて、自分と夫が病院から戻ってくるのを自宅で迎えてくれました。夫の同僚も病院から荷物を運んでくれました。もし、夫が病院で亡くなって、自分と中高生の子もとで、荷物をまとめて帰ることを思うと、友達の協力を得ながら退院することができて本当に感謝しています。
- 夫は退院したその日の夜に亡くなりましたが、自宅に帰ってきて、安心したのかもしれませんが、同僚の顔を見て、「来てくれたのか」「家に帰って来られて良かったね」などと話したり、長男が「焼き肉が食べたい」などと言ったり、夫が最期にそういった皆の声を自宅で聞くことができて良かったと思っています。

5 両立支援制度、介護保険制度等を活用した両立のポイント

専門職に希望を伝える

- 入院中、自分は病院、長男は寮、次男は祖父母の家というように、家族がばらばらな状態でした。退院してきて一日だけでしたが、家族や友達、みんなで一緒に過ごすことができました。思いきって在宅へ連れてきて、本当に良かったと感じています。ソーシャルワーカーやケアマネジャー等、専門職に口に出して、どうしたいか、希望を伝えることが大切です。伝えることで、実現に向けて、医療や介護の専門職が連携して、いろいろな手続き、対応を支援してくれます。

介護休業を取得し看護に専念する

- 介護休業中は、病院で24時間夫と過ごしました。仕事のこと、家のことも気にせずに、とても楽に夫についていることができました。元気な時にはなかったような密な時間を二人で過ごすことができたのも、介護休業を取得したおかげだと思っています。

6 介護をしながら働いている方へ

- 我慢をせずに声に出し、助けを求めてほしいと思います。自分の場合、病院のソーシャルワーカー、職場の上司、そして友達に、希望や悩みを相談しました。それが、在宅での看取り、介護休業の取得、日々の困りごとへの支援につながりました。
- 病院でずっと付き添う中、急速に弱っていく様子を見ていて、もう亡くなってしまふ、明らかに違う時空にいるのだということを実感しました。多くの人に助けられながら、つきっきりで一緒にいることができたからこそ、そのことを理解し、受け入れられたのだと思います。

最期も周囲の人に助けられながら、良い看取りができたことを感謝しています。子ども達も、在宅に戻ってきて、皆と一緒にいる様子を見て、父親がどういう人だったのか、理解が深まったと思います。

7 一週間のタイムスケジュール

	月		火		水		木		金		土		日	
	労働者本人	要介護者	労働者本人	要介護者	労働者本人	要介護者	労働者本人	要介護者	労働者本人	要介護者	労働者本人	要介護者	労働者本人	要介護者
	自宅	入院	自宅	入院	自宅	入院	勤務(夜勤)	入院	自宅	入院	自宅	入院	自宅	入院
8:00	通勤		通勤		通勤		通勤		通勤		通勤		通勤	
9:00	勤務		勤務				夫の見舞い		家事等		勤務		勤務	
10:00														
11:00					夫の見舞い		自宅睡眠							
12:00														
13:00					夫の見舞い				夫の見舞い					
14:00														
15:00					夫の見舞い				夫の見舞い					
16:00														
17:00	通勤		通勤		通勤		勤務(夜勤)		買い物 夕食の準備等		通勤		通勤	
18:00	家事等		家事等		家事等		家事等		家事等		家事等		家事等	
19:00	夫の見舞い		夫の見舞い				夫の見舞い				夫の見舞い		夫の見舞い	
20:00														
21:00	自宅		自宅		自宅		自宅		自宅		自宅		自宅	

<再発後の入院の際のスケジュール> ※介護休業を取得し、終日、病院で付き添い。